

■農業の担い手育成へ 南安曇農業高校と連携協定締結

市と県南安曇農業高等学校（西村清利校長）は、農業分野での連携協定を結び、市役所で9月8日、締結式を行いました。

あいさつで西村校長は「協定締結を機に今まで以上に連携を図り地域に貢献したい」と述べ、宮澤市長は「田園産業都市を掲げる市にとって農業は主力産業。連携により地域の産業の育成を図りたい」と話しました。

この官学連携協定は、市農業・農村振興基本計画に掲げる「農業・農村の振興」と、同校の教育目標である「健康で教養豊かな科学的農業人の育成」を目的に結ぶものです。協定の主な内容は、生徒と市民の交流や新品種導入・新技術開発での共同研究、生徒の就農支援促進など多方面にわたり協力

するもので、専門職業高校である同校との連携は、将来の担い手の育成や市の農業振興につながるものとして期待されます。

本年度は、夏秋イチゴの加工品の試作研究や、首都圏で生徒が市内産農産物・加工品の販売実習で消費者と接する機会を市が設け、就農意識の向上を支援する取り組みなどを行う予定です。



握手する西村校長（左）と宮澤市長

■日帰り温泉入浴施設 安曇野しゃくなげの湯が起工

日帰り温泉入浴施設「安曇野しゃくなげの湯」の起工式が9月25日、穂高有明のビフ穂高北側の建設地で行われました。当日は、市や市議会などの関係者約80人が出席。宮澤市長は「市民の福祉、健康増進に寄与し、ビフ穂高と連携し西側山麓の観光拠点施設となるよう期待したい」とあいさつしました。



起工式であいさつする宮澤市長

新しい建物は、地上1階、地下1階の鉄骨造りで、床面積は約1900平方メートル、大浴場や露天風呂、家族風呂などを備え、床暖房に松枯れ材や間伐材を利用した薪ボイラーを導入します。

昭和48年に開業した市営しゃくなげ荘と隣接する温泉健康館、有明宮城地区にある老人保

健センターは、天然温泉を楽しめる施設として多くの人に親しまれてきました。しかし、施設の老朽化への対応が合併前から課題となっており、地域審議会などの検討を経て、3施設に代わる施設として今回整備します。

開業は、平成28年10月の予定です。

■10年後の安曇野市を考える 協働のまちづくりフォーラム開催

人口減少、少子高齢社会を踏まえ、市民の皆さんに10年後の安曇野市の姿を考えてもらうため「協働のまちづくりフォーラム」を9月5日、堀金総合体育館で開催しました。

この日は区の関係者や市民等約250人が参加。基調講演やパネルディスカッションなどが行われました。

基調講演では元三重県知事で早稲田大学名誉教授の北川正恭さんが「次なる10年に向かって」と題し、講演。国の地方分権政策を振り返りながら、形式的な地方への権限移譲は終わり、今は実質的な分権の時期を迎えているとし「市民や議会、市が緊張感を持って自分たちの住む街を経営する時が来ている」と会場に呼び掛



意見交換をするパネラーの皆さん

けました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、区長会や商工会、市民活動団体の代表、11月の中学生議会に出席する生徒が参加し、「人口減少、少子高齢社会の中で安曇野市が目指すもの」をテーマに、市民や市が果たす役割などを意見交換しました。

■秋の観光シーズンスター 交通安全を呼び掛け

秋の全国交通安全運動の出陣式が9月18日、豊科南穂高の防災広場で行われ、安曇野交通安全協会市内各支部や警察、市交通安全協議会など関係者約110人が参加しました。

今回は、運動期間が秋の連休と重なり、当市に多くの観光客が訪れ交通事故の増加が懸念されるため、市独自で運動期間の開始を早めて啓発活動を行いました。



のぼり旗などで交通安全を呼び掛けた

した。

宮澤市長はあいさつで「交通安全の意識向上を図り、また、市内各地域でも交通事故が無くなるよう皆さんの協力をお願いしたい」と激励しました。

その後、防災広場近くの交差点2カ所で、通勤時間帯に合わせてのぼり旗やチラシなどで、街頭啓発を行い、ドライバーに安全運転を呼び掛けました。

本市では、9月末日現在、330日間交通死亡事故が発生しておらず、今後も関係機関や団体と連携し、交通事故を1件でも減らすように努めていきます。